

江の島の歴史



①「東海道七十三次 藤沢（録書東海道）」
歌川広重



②「東海道五拾三次之内 藤沢」
歌川広重

名僧や武将が訪れた

信仰の島

江島神社（IJE）は、古来より聖域とされ、島の洞窟・現在の江の島岩屋）には空海や日蓮聖人など名だたる名僧が修行に訪れたという。鎌倉時代には戦勝祈願を行った源頼朝が江の島を訪れ、八臂弁財天と鳥居を奉納したといわれる。弘安5年（1782）には、一遍上人が鎌倉入り拒まれ片瀬で踊り念仏を行った際にも、江の島に参詣したと伝えられている。

信仰・観光の人気スポットに

慶長5年（1600）には徳川家康が江島神社を参詣。江戸時代に庶民の間でも弁財天信仰が盛んになると、江戸から箱根の関所を過ぎずに参詣できる江の島は、多くの参詣客で賑わった。

③「江のしま参詣の図」歌川広重
身分の高い大名の奥方の行列を想像させる



江戸時代の旅人を魅了した

藤沢の歴史 ゆかりの地へ

天女と五頭龍伝説

江島神社の縁起書で、江の島が弁財天信仰の聖地とされたルーツになる物語「江島縁起」によると、昔、鎌倉には五つの頭をもつ悪い龍が住み着いていた。ところがある時、天地が揺れ動いた後に美しい天女が現れ、何もなかった海上には一つの島ができていた。これが現在の江の島とされている。その後天女の美しさに魅せられた五頭龍は天女と結婚するために改心し、村人のために力の限りを尽くした。やがて精魂尽き果てた五頭龍は山となり、天女を慕うようにいつまでも江の島を見守っているのだそう。



江の島の宝物



妙音弁財天

④「裸弁財天」ともいわれ、女性の象徴をすべて備えた姿の妙音弁財天（みょうおんべんざいてん）

信仰を集めた江の島の象徴



八臂弁財天

⑤鎌倉時代の女神像の優品として知られる江島神社の八臂弁財天が、国の重要文化財に指定されている



●えのしまいみや

江の島岩屋

⑥養和2年（1182）には源頼朝が奥州藤原秀衡征伐を祈願したといわれる

⑦入洞料10%OFF
※1冊につき5名様まで有効
2021年8月31日まで

長い歴史を誇る神秘的な洞窟を探検

富士山の氷穴に通じるともいわれる、島の最奥部にある海食洞窟。古くは弘法大師や日蓮聖人も修行したといわれ、江の島信仰発祥の地として崇められてきた。ロウソクの炎に照らし出された石仏や岩壁は神秘的なムードだ。

⑧藤沢市江の島2 ⑨入洞500円 ⑩9～16時（季節、イベントなどにより延長あり）⑪無休（荒天時は臨時休業あり）

⑫0466-22-4141（藤沢市観光センター）MAP 付録ウラ②A2

江戸時代に日本橋を基点とした東海道五十三次の6番目の宿場町だった藤沢。市内には賑やかな宿場町ゆかりの寺社や歴史スポットなどが数多く残されている。

着物姿で江の島を
そぞろ歩きしてみよう

龍神伝説 ●りゅうじんてんせつ

⑬0466-52-6975 MAP 付録ウラ①B2

小田急片瀬江ノ島駅から弁天橋を渡ってすぐの、着物レンタルサロン。どの着物を選んでもアップ料金なし（業界初）で、必要な小物、バック、簡単ヘアセットまで付いているから安心。できるだけ予約がおススメ。

⑭藤沢市片瀬海岸1-12-17江の島ビュータワー10階 ⑮小田急江ノ島線片瀬江ノ島駅から徒歩3分 ⑯着物レンタル6050円 ⑰10～18時（着替え所要約15～20分）⑱不定休 ⑲契約駐車場あり（1時間無料）



①江島神社前で記念のワンショット

②まずは好みの着物選びから



歩いてみよう

ほのかにライトアップされた岩屋内を、手燭（ろうそく）を持って歩くことができる。ただし混雑の場合は入場規制も。また第一岩屋の手燭の貸出は中止される場合もある。

